

# CASBEE神戸ver.3

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 評価（新編）2016年版（使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D\_NC\_2016(v3.0)）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸薬科大学新2・3号館他	階数	地上7F地下1F
建設地	神戸市東灘区本山北町4丁目447番	構造	RC造
用途地域	第1種低層住宅専用地域 第1種中	平均居住人員	500人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年5月11日
敷地面積	35,281 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社竹中工務店 平岡健太郎
建築面積	2,420 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	9,009 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 81%  
③上記+②以外の 81%  
④上記+ 81%

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

音環境	3.2
温熱環境	2.6
光・視環境	2.1
空気質環境	4.3

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	3.1
耐用性	3.2
対応性	3.4

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性	3.0

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.9
効率的	3.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	3.4
非再生材料の	3.6
汚染物質	4.0

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.7
地域環境	2.8
周辺環境	3.2

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振  Q-2/2.4 信頼性 	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 
配慮の概要 0	配慮の概要 0 基準法に定められた25%増の耐震性を有する	配慮の概要 人が出入りできる屋上があり一部を緑化している植栽により良好な景観を形成している
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**(仮称)神戸薬科大学新2・3号館他新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		<b>-</b>		<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.2</b>	0.15				<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.30				
2 界壁遮音性能				3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20				
1.3 吸音		タイルカーペット 岩綿吸音板		<b>4.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35				<b>2.6</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50				
1 室温				3.0	0.60				
2 外皮性能				3.0	0.40				
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.1</b>	0.25				<b>2.1</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30				
1 昼光率				1.0	0.60				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				<b>1.0</b>	0.30				
1 昼光制御				1.0	1.00				
3.3 照度		500≤照度<700lx		<b>4.0</b>	0.15				
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.3</b>	0.25				<b>4.3</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質		建基法を満たしかつ建基法規制対象外建材をほぼ全面に使用		<b>5.0</b>	1.00				
4.2 換気				<b>2.6</b>	0.30				
1 換気量		1人当り換気量 30 m <sup>3</sup> /h・人		<b>4.0</b>	0.33				
2 自然換気性能				1.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33				
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> 濃度計により全熱交換器の台数制御を行う		5.0	0.50				
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.1</b>	0.40				<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40				
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画				3.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				<b>3.5</b>	0.30				
1 広さ感・景観				<b>2.0</b>	0.50				
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施している		5.0	0.50				
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		外部に露出する金属部材にメッキ処理等の防錆対策が取られている		4.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.2</b>	0.30				<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.2</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>2.0</b>	0.20				
1 空調・換気設備				1.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				1.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.8m以上	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.17	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造材・仕上材を痛めることなく修繕更新が可能 ケーブルラック方式	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造材・仕上材を痛めることなく修繕更新が可能 ケーブルラック方式	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		周辺にある人が集まる場所からの良好な景観を形成	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPIm0.65	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.71	<b>3.9</b>	0.50	-	-	<b>3.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水便器 節水コマの採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		塩ビシート 岩綿吸音板	4.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		LGS OAフロア	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別1	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2 81%	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェック項目の過半を満たし広告物照明無し	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	